

柵野川沿いの高野集落まで車を走らせる。釣り人用の駐車場なのか広い空き地があったのでそこに車を停める。

尾根の先端に踏み跡があったので取り付くが防獣金網に阻まれ侵入できず諦める。道路に戻り、そこから少し西に進むと林道が尾根に向かっていたのでそれを進むと扉があり、それを開けて進むと水道施設がある。その建物の裏の植林地の急斜面をトラバース気味に歩いて目的の尾根に向かう。取り付いた尾根は自然林の広く明るく障害もなく歩き易そうである。

後続者を待つ間、柵野川沿いに広がる美しい田園風景を眺める。少し息を整えて歩き始めると、「ヒルダンスや」との声。雨後で地面が湿っているので動きやすくヒル達喜んでいらしい。P480mまでに小ピークが3つほどあった。

標高520mのピークで進行方向が西向きに変わる。次のピークでも複雑に進行方向が変わるが問題なくP609mの尾根に合流できた。このコースではママコナの花が丁度見ごろである。

609mから進行方向は北西に変わる。相変わらず自然林の道が続き快適に歩ける。送電線をくぐりしばらく進むとP689m。このピークには鶴ヶ岡や豊郷からの道が上がって来ている。進行方向はほぼ西に変わるが尾根が広く比較的道がはっきりしている。関電の巡視路だからなのだろう。

やがて前方に大きな反射等が見えてきた。奈良井山の前衛峰である。時間的にも、見晴らしも良いのでここでランチタイムとする。反射板の足場に腰を掛け、東方向を眺めると、丹波高原の蒼い山並みが幾重にも広がり気持ちの良い場所である。

食事後南に向かうとすぐに二等三角点のある奈良井山に到着する。樹木に囲まれ展望は少ないが明るい山頂である。「念仏」と「奈良井山」両方の表記があるが、山頂

の南にある奈良井谷川に包まれるように存在する山なので奈良井山としたい。

記念写真を撮り下山にかかる。691mのある尾根に取り付くには読図力が要る。下るべき方向に顕著な尾根が無いのでコンパスで東南東に方向を決め一気に下ると、南向きの尾根に乗るが倒木や藪が道を塞いでいるが、何とか凌いで P691mに乗る。この辺りに数本のブナが残っている。691mから南西に少し進むと尾根が3つに分かれるが、南東方向に伸びる尾根に乗る必要がある。

この辺りの尾根には紅紫色のシククママコナの群生地が多く登場し気持ちを和ませてくれる。送電線をくぐると P642m。ここでも尾根が二分するので西に伸びる尾根を選ぶ。 緩やかに

P541mに乗る。ここから一コースの北向き尾根で安談したが即座に却下さ

P541mから南東方暫く歩くと三角点のあ山」550.3mに到着する。かう尾根があるが、地



下り緩やかに登るとら登山口への最短コ井谷川に下ろうと相れる。

向に尾根が向かうがる「高野」別名「津向この山頂から南に向元の人が頻繁に訪れ

る山なのかよく踏まれた登山道が続いている。

下山後柵野川沿いの車道を歩いていると、手押し車で帰宅途中のおばあさんに挨拶をすると、今宮城の話をしてくれたので、帰宅後、今宮城について調べてみると、川勝光照氏の居城で、川勝氏は足利将軍に仕え、織田信長の部将明智光秀が丹波へ侵攻するとこれに従って活躍、その後豊臣氏、徳川氏に仕え、江戸時代には旗本として存続している。とある。城跡は津向山から南東に伸びる広い尾根の小ピーク 420mの周辺に作られていたらしいが、稲荷神社辺りからだ急斜面を標高差 150m以上登る必要がある。

★メンバー 三鍋 他 6名

★コース 高野登山口 9:00～P480 10:16 登 36～P609m 11:45～反射板 12:15 登 45～奈良井山 12:55 登 13:05～691m 13:40～642m 14:22 登 28～541m 15:22 登 28～津向山 15:43 登 48～林道 16:27～車道 17:05～登山口車 17:15